

日本 萬歳
百揆 百笑

○溺合の馳走 骨皮道人
 まさろ「お鯛さんへ何時見てもお赤くしてお目お鯛
 ねも」夫「夫ら鯛徒等もお顔が見鯛の逢ひ
 鯛のと尾は鯛子で評判々居よのよ鯛
 「オヤ憚り様何と奢りませうオヤミサア且
 那是ハヤんの溺合の死露物で餘りおい死
 苦いありませんアアおアアおアアおアアおアア
 ます 鯨 イヤ是ハ隊死ハ遊々下や定めー
 上のちやらう鯛「変なああは是ハ見掛
 倒しや安もまハ買被了ので中座います
 よ勿論ハ奴ハ著も棒も掛らまハ食ち
 い厄海物とくすの居まハ成りて面の
 皮の厚ハ割合ハ骨身ハサハ應ハがけり
 まんて然ハ腹黒の癖ハ膽ハ穴ハ虚ハ
 一、お員ハ腰抜で疝氣筋が多くて存外お
 歯ハ合ハいさうで中座います 鯨「ハ葬かハ
 兎も角ハ食てんやハと無造作ハハクリお
 鯛ハ驚く鯛「オヤハ且那ハ少ハも噛ず
 不……鯨「ハ此位ハどのハ何時でも
 ひと天也」



貞生

明治三十七年六月十日印刷 全年五月十五日發行 印刷無様行若日共機屋吉川町一番地 松本平吉電報漢花三三六八六番